

# 「樹木」からの「恩恵」を受け継ぎ活かしていくために

JUON NETWORK 樹恩ネットワーク（東京都）

農山漁村と都市を結び  
自然とのつながりを取り戻そう

一九九八年に大学生協の呼びかけで設立された樹恩ネットワークは、「過疎地域の人々との出会い」から生まれたNPO法人です。「大学生協では、全国各地にある廃校をセミナーハウスとして再活用していました。その運営のなかで過疎の問題が見えてきました。そして、もうひとつのきっかけが阪神淡路大震災です。大学生協が被災した学生のために仮設学生寮を建設したのですが、そのとき徳島県三好郡（現・三好市）から、間伐材をご提供いただきました。それから三好郡と大学生協との間に交流が始まり、学生は過疎地域や林業の現状を知るようになったんです。さらに、震災によってボランティアへの意識が高まっていたこともあり樹恩ネットワークが生まれました」

と事務局長の鹿住貴之さん。「農山漁村と都市を結びながら森林・土・風土と私たちのつながりを取り戻そう」を合言葉に、活動内容は多岐に渡ります。

全国十一箇所で開催されている「森林の楽校」は、林業体験や地元の人との交流を通じて、日本の森林の現状を知る体験学習講座。地元の人たちの指導のもと、枝打ち、下草刈りなどの作業に汗を流すことで、参加者は人が手を入れることで森は存続する「ことを実



ヤマハンノキを力を合わせて伐採

感するそうです。森づくりに継続して関わりたいという人に向けては、「森林ボランティア青年リーダー養成講座」を実施。修了生の有志により、定期的な森林作業やきのこ栽培なども行われています。

## 間伐材を利用した 樹恩割り箸を大学食堂に

樹恩ネットワークのユニークな試みとして、間伐材を利用した「樹恩割り箸」があります。「大学と木というキーワードを考えたとき、食堂の割り箸があるじゃないか！ というアイデアがひらめきました。現在では六三校の大学で使われています。導入したいの申し出も多いのですが、生産が追いつかない状



況です」  
 生産は障害者施設に依頼していることから樹恩割り箸には、国産材や間伐材の利用・障害者の雇用・食堂の排水の節減という三つの意義があると、鹿住さんは続けます。割り箸の袋には、「間伐は木を育て、森を守ります。この割り箸は、間伐材を利用し心身にハンディキャップがある人たちが製造したものです」と印刷。一膳の箸は、森林保全に対する正しい知識を身につける契機にもなっています。

樹木の恩恵を、都市の人たちに伝え、日常生活のなかで樹木を活かしていきたい。設立から一〇年を迎え、樹恩ネットワークの思いが多くの人に届きはじめています。

data

〒166-8532  
 東京都杉並区和田 3 30 22  
 ☎03-5307-1102  
<http://juon.univcoop.or.jp/>



上：佐渡島でも「森林の学校」活動を実施。コナラを伐採し、トキの野生復帰に向けた里山の再生を目指します（新潟県佐渡市）

中：いっしょに汗を流したみんなで記念撮影

下：大きな文字で書かれたスローガンが目を引く「樹恩割り箸」



樹恩割り箸製造施設・社会福祉法人池田博愛会「セルフ箸蔵」（徳島県三好市）